越中富山と宗谷のつながり～利尻に渡った獅子神楽を中心に～

利尻富士町教育委員会　山谷 文人

1．宗谷各地に残る富山とのかかわり

・稚内

富山県人会の存在。平成 26 年、稚内市に県人会の旗が寄贈となる。

箱（103×21.5×h15.5 ㎝）に「富山県人会　会旗　大正 9 年 1 月 5 日　佐久間」と記載あり。【付属品】・稚内富山縣人會會旗・三脚・支柱

・中頓別

藤井地区（三六線）　明治 41 年入植　藤井清助、外次郎兄弟（東砺波郡出身）

聖福寺（浄土真宗大谷派）　明治 43 年に入植した内田滋敬（婦負郡四方町出身）により翌 44 年説教所開設。　＊昭和 41 年名誉町民、開拓記念碑碑文は内田の書。

旭台・豊泉地区　大正 2 年道徳農場開設　道徳安二（富山出身）

・利尻

南浜地区　くわしくは後述するが、表 1 の富山 4 戸のうち、2 戸が該当し、射水郡新湊町放生津町と上新川郡桐ノ木村放士ケ瀬新村から入植している。

また、29 年『加籍目録』によれば、富山県から 3 件の入植が認められる。

新湊地区　地名の由来は、富山県の新湊ではなく、明治 24 年富山県から渡島した新浜藤七の「新」と昭和初期に造成された漁港が集落の発展の礎になるとの理由によるといわれている。旧地名は「美也古呂（ビヤコロ）」。地区内は 3 つの集落に分かれ、漁港の北側は富山からの移住者が多かったことから越中町、広嶽神社通りは宮町、漁港南側は柳田町と呼ばれた。越中衆を中心に鱈釣りが盛んに行なわれ、伊勢志摩の海女も天草採りに来ていたという。

表 1 利尻島移住者の出身地（明治 25 年）

出身地 道・県	出身地 郡区	戸数
北海道	松前	12
	小樽	8
	函館	7
	余市	4
	高島	4
	島牧	3
	増毛	2
	其他	7
	小計	47
青森	東津軽	18
	北津軽	14
	西津軽	7
	南津軽	5
	上北	2
	弘前	2
	小計	48

出身地		戸数
福井	坂井	12
	今立	4
	丹生	3
	南条	1
	小計	20
秋田	南秋田	6
	山本	4
	河辺	1
	由利	1
	小計	12
石川		8
新潟		8
鳥取		6
富山		4
山形		3
宮城		2
其他		6
合計		164

註）利尻郡各村戸長役場『明治廿五年分　登記目録』より作成

２．北前船とニシン漁

①北前船とは

・北海道と大阪を日本海回りで往復した（西回り航路）。
・寄港地で積荷を売り、新たな仕入れもした。
・「北前」とは「日本海」を指した言葉で、大阪・瀬戸内の人たちが使った。
　富山では「バイ船」、東北では「べ(ン)ザイ船」（弁才・弁財）。
・白く巨大な帆 1 枚で帆走する和船。明治以降は、西洋式帆船も活躍した。
・活躍したのは、18 世紀半ば～明治 30 年代。

②流通したおもな物資

下り船（北海道行き）

米（酒田など）、塩（瀬戸内）、鉄（島根、鳥取）、酢（尾道）、藁（縄、筵：ムシロ、叺：カマス＝筵を袋状にしたもの）、石材（御影石：瀬戸内、笏谷石（しゃくたに）：福井　＊バラストの役割も果たす）、味噌、酒、薬

＊佐藤 1997 によれば、幼少の頃の記憶として、富山から薬売りが年に一度、各家庭の置き薬の入替えにやってきて、お土産に紙風船や食い合わせの絵紙を置いていったという。

上り船（大阪行き）

ニシン（魚粕が主、北陸の綿花・米栽培の肥料として使用。ほかに身欠きニシン）、俵物（煎海鼠：イリコ＝乾燥ナマコ、干鮑：カンポウ＝乾燥アワビ、鱶鰭：フカヒレ）、昆布

３．移住と宗教・信仰

①宗派と移住元

表 2 をまとめると下記のような特徴がつかめる。
禅宗：秋田、鳥取、青森、道内　＊東北地方主体
浄土真宗：福井、石川、富山、新潟　＊北陸地方主体
浄土宗：青森、鳥取、道内
日蓮宗：道内、青森、秋田、新潟

・利尻島の浄土真宗寺院

南浜　正徳寺（大谷派南浜教会）明治 23 年創立　明治 23 年新潟県より来島した佐々木順楽が布教。現在は廃寺され、真立寺に併合。
鴛泊　本浄寺（大谷派）明治 14 年創立
　　願正寺（本願寺派）明治 26 年創立
石崎　共同寺（大谷派）明治 23 年創立
鬼脇　浄照寺（本願寺派）創立不詳
　　真立寺（大谷派）明治 17 年創立　明治 17 年石川県より来島した玉岡誠孝が布教

沓形　明源寺（本願寺派）明治 22 年創立

大安寺（大谷派）　明治 24 年富山県から渡島した新浜藤七が、母村である富山県新川郡生地町（いくじまち）の大泉寺住職であった園家智祐へ来島を懇願したことに始まる。境内には、新浜藤七之碑がある。

仙法志　龍雲寺（本願寺派）明治 23 年創立

西円寺（大谷派）明治 32 年創立

授法寺（真宗高田派）明治 26 年創立。元村地区（福井県芦原郡北潟からの移住者多数）の要請による。平成 2 年廃寺。

表 2　旧鬼脇村の宗派と移住以前地（大正 7 年調査）

	浄土宗	浄土真宗						真言宗	天台宗	禅宗		日蓮宗		天理教	神道	無	計
		浄土真宗	西本願寺	東本願寺	門徒	一向宗	高田派			禅宗	曹洞宗	日蓮	法華教				
道内	32	21			9	1		14		43	15	20	2	1		3	161
青森	45	13		1	16			15		88	32	24	3		1		238
秋田	4	12			7			2		104	19	15	1		1	2	167
岩手		2								5							7
山形		4						1		2	4	1					12
宮城		3			1			2		5	1	1					13
福島	1	1							1	1					1		5
栃木											1						1
茨城										2							2
千葉		1															1
東京		2															2
神奈川	1	1								1							3
静岡		1															1
山梨	1											2					3
長野					2					1							3
新潟		10			6			2		8	3	6					35
富山		5	1		3			5		1							15
石川	3	26			6			5		2							42
福井	1	24	3		12	1	4			2		4				3	54
愛知		1						1		1							3
滋賀	1	5	1														7
奈良												1					1
大阪					2					1							3
兵庫								1		1	1				1		4
岡山										2							2
広島										1							1
鳥取	8	3			5			1		29	40	3		1		1	91
島根	1	1								2	1						5
山口		1			1												2
高知															1		1
大分	1	1															2
中計	99	138	5	1	70	2	4	49	1	302	117	77	6	2	5	9	887
	99						220	49	1		419		83	2	5	9	887

旧鬼脇村『大正 7 年12月　戸口調査票』（第 1 部～第12部）により作成

②聖徳太子信仰

室町時代の終わり頃から、大工や木工職人の間で太子講が行なわれるようになった。これは、法隆寺などの巨大建築に太子が関わったことから、建築、木工の守護神として崇拝されたことが発端という。富山県井波の瑞泉寺では、「聖徳太子絵伝」の絵解き法要である太子伝会（たいしでんえ）という行事が行なわれており、市内には至るところに太子の石仏が分布している。

・利尻島における聖徳太子碑の分布

鴛泊　願正寺　明治 38 年 5 月建立
本泊　浄土宗慈教寺　大正 5 年 11 月 3 日建立
南浜　正徳寺　大正 6 年 11 月建立　1300 年記念。寄進者名風化。
仙法志　西円寺　昭和 5 年 8 月建立　聖徳太子の 1300 年御忌を記念し山下菊太郎が寄進。

＊大正 10 年＝聖徳太子没後 1300 年

・宗谷における太子講の分布

歌登　誓岸（せいがん）寺（浄土真宗本願寺派）　かつて太子堂があり、8 月 15 日を祭日として、大工や鍛冶職人の技術向上と安全を祈願するために太子講が行なわれていた。明治 40 年に入植した高瀬与一郎が出身の富山から分祀したという。

枝幸　太子神社　本町地区にかつてあったが、現在は不明。創立は昭和 13 年 8 月 1 日。聖徳太子を祭神として 6 月 17 日に祭典があった。

豊富　清輪（せいりん）寺（曹洞宗）　大正期に太子堂を建立。聖徳太子誕生の 9 月 29 日に祭りが行なわれるようになった。昭和 33 年、清輪寺の新築移転に伴い、太子堂は豊富八幡神社に移転された。その後講中の高齢化、お堂の老朽化に伴い、49 年から祭典休止。だが、再建の動きが起こって 55 年に太子堂を新築し、56 年から祭典も復活し現在に至っている。現在の祭日は 9 月 14・15 日。

4．北海道に伝わった越中獅子舞

①獅子舞の種類

・風流系獅子

関東・東北で行われる鹿踊（ししおどり）。鹿の頭をかぶり胸に太鼓をつけた一人立ちスタイル。

・伎楽（ぎがく）系獅子

中部以西で行われる唐獅子の頭に幌をつけた二人立ちのスタイル。

②獅子舞のタイプ

富山伝承の獅子舞は、富山市内にある呉羽山（くれはやま）を境に東側（呉東）では二人立ち獅子、西側

（呉西）では百足獅子が分布する。さらに芸態により大きく 5 つのタイプに分類される（富山県教育委員会 1979、浅見 2013）。

⑴百足獅子

・氷見型

分布域：氷見地方全域、能登、高岡市、小矢部市、五箇山、城端町、福光町、呉東の魚津市、上市町

獅子：5～6 名、胴幕に竹の輪を使わず、手で張る。

獅子あやし：天狗

・砺波型

分布域：砺波平野一円、射水南部、婦中町

獅子：5～6 名、胴幕に竹の輪を使い大きく見せる。獅子頭も大きい。

獅子あやし：少年が 2 人一組、まれに天狗

・射水型

分布域：新湊市、高岡市、射水郡一帯

獅子：5～6 名、胴幕に竹の輪を使わず、手で張る。

獅子あやし：少年が 2 人一組、5～6 名で花笠をかぶる。

また、射水型は、胴の形が氷見、薙刀・刀・鎌などの採物は砺波の影響を受けており、個性はそれほど強くないとされる。

⑵二人立ち獅子

・金蔵型

分布域：大沢野町、細入村、富山市南部、大山町、立山町、呉西の婦負郡、五箇山、砺波

獅子：前足と後足の二人立ち、雌雄二頭。

獅子あやし：キンゾウという武者がいる

・下新川型

分布域：下新川郡一帯

獅子：二人立ちだが、頭だけの場合もあり。

獅子あやし：天狗（8～16 名のところもある）

③各地の越中獅子舞

表 3 のとおり、57 例が確認されている。なかでも百足獅子である砺波型、氷見型が大勢を占める。日本海沿岸では、宗谷では唯一、南浜獅子神楽だけが知られ、留萌では、留萌、羽幌、天塩、初山別に分布する。3 分の 2 は、上川や空知などの内陸で占められている。伝承時期については、判明しているものの最古は丘珠の明治 25 年で、明治期が 33 例、大正期が

8 例、昭和期が 13 例（戦前中 9 例）である。

天塩町の越中獅子舞は、昭和 17 年、曲師粂次郎、高木与四左衛門、川端キク、谷村清太郎らが中心となり、新湊放生津より取り入れたものを、厳島神社に奉納したことに始まる（新編天塩町史編纂委員会 1993)。

5．宗谷に伝わった唯一の越中獅子舞

①南浜地区の社会と獅子神楽

南浜獅子神楽の伝承時期は、明治年間とされている。それを正確に伝える記録はないが、以下の資料から類推してみる。

・南浜地区の社会背景

明治 23 年　新潟県から佐々木順楽来島し、正徳寺（説教所）を創設、布教始める

明治 25 年　利尻尋常小学校目忍路分校開設

富士沼竜宮神社建立（現在のメヌウショロ沼付近）

＊昭和 45 年南浜神社に合祀

大山神社（二代目）＊大正 15 年焼失

南浜神社（三代目）＊現在地

表 4　大正 7 年の鬼脇村における出身地別戸数

郷里＼区域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計	%
北海道	1	15	12	13	21	20	6	12	8	14	21	143	16.1
青森	14	27	9	21	19	8	5	38	45	28	36	250	28.1
秋田	6	27	47	27	11	13	6	6	3	11	15	172	19.3
鳥取		4			21	4	54	2	1	3	1	90	10.1
福井	1	21	4	2	7	20		1	1		1	58	6.5
石川	1	5		2	17	12	2	2	2	1		44	4.9
新潟		5	1	4	10	7	4		1		2	34	3.8
富山		9			2	1	3					15	1.7
山形		1	1			5	1		3	1		12	1.3
宮城						9	1		1		1	12	1.3
岩手		2	3		1	1						7	
兵庫	1	3			1	1					1	7	
滋賀					5	1						6	
島根		1			1	1			2			5	
福島				1	1	3						5	
山梨					2	1						3	
愛知					2		1					3	
神奈川						2					1	3	
大分						2		1				3	
長野											3	3	6.7
岡山		1			1							2	
栃木			1		1							2	
山口				1		1						2	
千葉						2						2	
東京						2						2	
広島					1							1	
茨城						1						1	
奈良						1						1	
高知						1						1	
静岡						1						1	
合計	24	121	78	71	124	120	83	62	67	58	82	890	

註）鬼脇村役場『大正七年拾弐月末戸口調査集計表下調』により作成

表 4 は、大正 7 年の鬼脇村における出身地別戸数である。全 890 戸を対象としている。表中、区域は現行字でいうと 1：野中、2：南浜、3：沼浦、4：金崎、5,6：鬼脇、7：清川、8：二石、9：石崎、10：旭浜、11：鰊泊である。

出身地別では、青森が全体の 28%を占め、秋田、北海道とつづく。秋田は沼浦、鳥取は清川、福井は南浜と鬼脇、石川・新潟は鬼脇、富山は南浜というように、集落により出身地の割合が異なる。

表 5　南浜における出身地別来住年の推移（戸数、大正 7 年調査）

移住元	北海道	青森	秋田	岩手	新潟	富山	石川	福井	鳥取	その他		合計
明治1		1	1									2
明治2												0
明治3												0
明治4												0
明治5												0
明治6												0
明治7												0
明治8												0
明治9												0
明治10												0
明治11												0
明治12												0
明治13												0
明治14												0
明治15												0
明治16	1											1
明治17												0
明治18												0
明治19								1				1
明治20												0
明治21												0
明治22		2	1			1		1		1	大阪	6
明治23	1		1		1	1		3				7
明治24		2						1		2	大阪・兵庫	5
明治25	2	2	2					1				7
明治26			1									1
明治27		3			1	1	1	2	1			9
明治28									1			1
明治29	2		1					1	1			5
明治30		2	1			1	2	2		1	不明	9
明治31												0
明治32	1	1	4		1	1		2	1	1	岡山	12
明治33					2			2				4
明治34			3					1				4
明治35		2	1			1						4
明治36	1	1				1	1					4
明治37	2	1	1									4
明治38								1				1
明治39	3	2										5
明治40		1										1
明治41												0
明治42							1					1
明治43		1		1								2
明治44	1											1
大正1	1	1	4	1		1						8
大正2		2						1		1	山形	4
大正3		2	2									4
大正4	1		1									2
大正5			1			1						2
大正6												0
大正7	2									1	島根	3
合計	18	26	25	2	5	9	5	19	4	7		120

表 5 は、南浜地区にあたる第二部調査票をもとに、出身地別に来住年の推移を集計したものである。明治 22 年以降、30 年代末にかけて戸数が増えている状況がわかる。北陸地方出身者は浄土真宗系で占められ、そのほとんどが正徳寺の檀家であることが確認された。

・記録と聞き取り

河田槙（みき）による紀行文『旅に住む日』には、昭和 10 年代当時の鬼脇祭典について書かれており、祭典行列の後に獅子舞が舞われていたという。「長い垂布を 5,6 人の男してかついだ獅子頭の前面に、3 人の異形な扮装の男が、なんともいいようのないグロテスクな鬼面をつけ、編み笠をかぶって跳ねまわっている。男達は各々左手に開いた番傘を楯にとり、右手に銀紙を張った太い剣状の木片を振るって、交互に獅子に迫っては追い返されるしぐさを演じている。獅子が悪魔をはらう演戯か、鬼面の英雄が獅子を退治する所作か、いづれかであるらしい。ことにもっとも勇敢に獅子に挑む黒面の一人の帯は、前結びの両端が太い棍状の垂れとなってしきりに股間に踊った。」そして、橋本旅館の前がクライマックスと結ばれている。

昭和 46 年、獅子頭製作の際、依頼した富山県井波の彫刻家野村清太郎氏からの書簡には、頭から類推すると新湊市放生津のものではないかとされており、獅子頭・用具等すべて井波で製作したものと記載されている。（東利尻町教育委員会 1969～1985）

古川恭司氏（当時、東利尻町社会教育主事）と萩原満氏（当時、南浜中学校教諭）が、昭和 42 年に南浜在住の古老、加藤兵太郎・仲川末造氏から聞き取りを行っている。

「南浜の開拓は、文化年間漁業のため東北地方より移住してきたことに始まる。以後年々来島するものが増加し、やがて越中富山より弁財船で来島し、漁業を行うものが急激に増加してきた。明治 9 年には目忍路（メヌウショロ：南浜の旧地名）に永住するもの 11 戸を数え、年間出入りするもの数百人に増加、春になると大いに賑わいを見せた。当時の人々は故郷から遠く離れ、見知らぬ土地に来て寂しさと戦いながら漁業にいそしんでいた。人々は豊漁を願い旅の無事を神に願った。やがてこれらの祈りを越中で行われていた獅子神楽を目忍路で舞い、目忍路の守護神であった富士沼神社に奉納されたことに始まっている。その後この神楽は部落祭典行事の一環として取り入れられ、祈願の舞と同時に部落の慰安としても多く楽しまれ毎年行われた。この舞が代々受け継がれ南浜獅子神楽として伝承され現在に至っているのである。」（古川 2015）

②神楽の活動

昭和 40 年代までは、南浜神社の祭典に奉納されていたが、昭和 43 年、鬼脇地区へ活動領域を拡大した南浜獅子神楽保存会が結成され、北見神社の奉納へと移行した。昭和 54 年には、利尻富士町無形民俗文化財に指定された。昭和 56 年には、保存会内に鬼脇中央青年団を中心とした若獅子会が結成された。昭和 60 年に北海道文化財保護協会から北海道文化財保護功労者賞、利尻富士町文化協会から文化賞を受賞した。

また、こどもたちへの伝承の取組として、昭和 57 年文化財保護少年団が組織され、保存会が指導にあたった。さらに南浜小学校が利尻小学校へ統合されたことを契機に、昭和 59 年南浜獅子神楽利小の会が結成され、利尻小学校の特別教育活動として取り入れられ学芸会等で

披露された。

現在は、鬼脇公民館活動の一環として、南浜獅子神楽こども教室が開催され、保存会の指導による伝承活動に取り組んでいる。保存会についても、利尻小学校卒業生を中心としたメンバーで取り組み、町内のお祭りやイベント等で披露を行っている。

・神楽の構成

神楽の構成は、天狗役が大天狗と小天狗（道化役）1 名ずつ、獅子役が頭役 1 名、胴幕のなかに 4 名、尻尾 1 名となっている（6 名以上）。囃子方は、大太鼓 2 名（大バチ・小バチ各 1）と笛数名で担当する。

大天狗は、カツラと面をつけ、弓、鎌、扇、薙刀、刀剣、傘、葉団扇などの採物を持って舞う。衣装は、現在は袴と着物（昔は着物袴にどんぶりと呼ぶ胸当をつけた）を着用し、手甲脚絆をつけ白足袋にわらじを履く。

小天狗は、編笠と鱈の頭で作った面（本来は烏天狗だが、入手困難なため似たもので代用したという。ヒョットコの面も使われた）をつけ、すりこぎや赤飯をつけたへら（しゃもじ）を持って天狗の周囲を護る。また天狗の動作をまねて舞うため「まねこき」とも呼ばれる。かつては、背中にわらじと身欠きニシン、御幣などをさげた。衣装は、大天狗と同様だが、色・柄違いを使う。

獅子役は、白いズボンに赤い襦袢、前掛けをつけて、青いしごきと黄色いたすきを掛ける。頭は白い鉢巻きをする。白足袋にわらじを履く。

囃子方は、保存会の祭半纏を着て、白い鉢巻きをする。

伝えられている舞の演目は、以下の 10 種である。楽曲は、笛と太鼓で構成され、祈願と薙刀、弓鎌、三番叟（さんばそう）の 4 種がある。

（1）祈りの舞（薙刀）：神社で最初に舞う。
（2）三番叟の舞（槍）：神に捧げる舞。前座に出す祝儀の舞。
（3）護身の舞（薙刀）：薙刀を手に取り、獅子と絡んで討ち取る。
（4）悪魔払いの舞（葉団扇、剣）：わらじ履きのまま座敷を走る。
（5）豊漁の舞（弓、矢）：弓を釣具に、獅子を魚と見立て射止める。
（6）豊穣の舞（鎌）：五穀豊穣を祈る。
（7）安穏（あんのん）の舞（剣、傘）：豊漁豊作になり、悪魔払いをし、人々は安心した日々を送る。
（8）悟了（ごりょう）の舞（薙刀、剣）：剣で舞い、薙刀で獅子をおさえる。贅沢な生活を反省する舞という。
（9）獅子殺しの舞（剣）：剣を持って獅子と絡み、最後は獅子、大天狗、まねこき、尻尾役が胴幕内の獅子役の肩にのって一巡する。悪魔を一掃し、人々が喜び合っている様子。
（10）感謝の舞（薙刀）：祈りの舞と同じという。

・道具の種類

・太鼓（利尻島郷土資料館展示資料、南浜神社旧蔵）

胴外部に「奉納　越中新湊町　松谷長吉」、内部に「越中大門東町　新庄屋　久五郎（花押）　山ヨリ■出ハ　寅春口渡　壱尺壱寸　安政二年乙卯春　新出来仕候」と墨書されている。皮は両方ともはがれており、鋲も抜けている部分がある。安政 2 年に富山で製作し奉納された太鼓を、後年利尻の獅子神楽のために持ち込んだものと考えられる。

・獅子頭

初代：木製でかたちは箱型。表面全体を朱で、内面（口内）を黒で彩色している。利尻で製作されたものと考えられるが、製作年代・製作者を示すものはない。タテ 29×ヨコ 25×高さ 17cm。郷土資料館展示資料。

二代目：富山県で製作か。製作年代・製作者を示すものはない。大正から昭和にかけて使用されたと考えられる。タテ 43×ヨコ 46×高さ 48cm。郷土資料館展示資料。

三代目：二代目と同型だがやや大きめ。富山県で製作。タテ 48×ヨコ 65×高さ 50cm。胴幕の長さは 6m60cm。平成 4 年度宝くじ助成備品。現役。

・獅子尻尾（郷土資料館展示資料）

全長 83cm。柄部(24cm)は木製で黒テープが巻かれている。

・天狗面（郷土資料館展示資料）

木製。全面朱塗り。タテ 18.5×ヨコ 15×厚さ（鼻先まで）16cm。つくりは二代目獅子頭と似る。同時期に製作か。

・鎌（郷土資料館展示資料）

木製。柄部 31cm 赤青テープが交互に巻かれている。刃部は銀色に彩色され、付け根は金色、長さ 2cm。柄の端部には折り紙でつくられた飾りのほか、ヒモの先端に造花がつけられる。保存会所蔵の鎌には、赤い布で巻かれた玉がつけられている。

・剣（郷土資料館展示資料）

木製。全長 47cm 柄部は青テープが巻かれ、端部には折り紙飾り。束は金色、刃部は 3cm で銀色に彩色される。

・傘（郷土資料館展示資料）

番傘。全長 70cm

・槍（郷土資料館展示資料）

全長 153cm 柄部は竹製で、赤青テープが交互に巻かれ、両端に金テープもしくは彩色されている。端部に折り紙飾り。槍先は木製で、長さ 20cm 銀色に彩色される。

・薙刀（郷土資料館展示資料）

木製。全長 168cm 柄部は黒テープが巻かれ、両端部に金テープ、端部に折り紙飾り。刃部は長さ 36.5cm、銀色に彩色されている。

・弓（郷土資料館展示資料）

全長 169cm。竹弓で、全体に青テープで巻かれ、持ち手と弭（はず）部分は金テープ、両弭に折り紙飾り。

・葉団扇（保存会資料）

木製。全長 37.5cm。柄部は赤青テープで巻かれる。団扇は緑色に彩色され、金紙が張られている。

・まねこきの道具（保存会資料）

面は、大型の鱈の頭でつくられたもの。保存会メンバーであった三浦義一氏の作という（古川 2015）。

木製のすりこぎ（長さ 48.5cm）とへら（長さ 35.5cm）がある。

まとめ

南浜獅子神楽の伝承時期は、聞き取りにもあるとおり移住者が増え、人々の精神の拠りどころとなり神楽を奉納するための「神社」が形成されて以後のことと考えられる。したがって、明治 25 年以降と考えるのが妥当であろう。

それでは、富山県のどこから伝わったのか。獅子役が、胴幕に竹の輪を使わず、手で張るのは、氷見型・射水型にみられる。また、獅子あやしが天狗であるのは氷見型の特徴である。さらに、獅子頭製作の際の返信に加え、射水市（旧新湊市）放生津には恵比須信仰にかかわって「オベッサン」という演目があり、南浜獅子神楽の弓を釣り具に見立て豊漁を祈願する豊漁の舞に類似していることから、射水型の特徴をもっており、港町である放生津から利尻島へ伝わった経緯を如実に物語っている。

以上のことから、南浜獅子神楽のルーツは、氷見と射水の混交型とみられる（北海道教育委員会 1998）。ではなぜこのようにルーツが 1 タイプに収まらないのか。それは、南浜には残された記録だけでみても、放生津以外に富山県内各地からの来住がうかがえることがある。そして、おそらく獅子舞にも県内各地から来住した人々によって、それぞれのスタイルが採り入れられながら舞い続けられてきたのだろう。河田の紀行文にあるように、獅子あやしが 3 名いた可能性、さらにまねこきの鱈の面のように富山にはない利尻独自の要素も加えられながら、徐々に「南浜獅子神楽」のスタイルが確立されていったのではないかと考えられる。

参考・引用文献

利尻郡各村戸長役場　1892『明治二十五年分　登記目録』
鬼脇外二村戸長役場　1896『明治弐拾九年　加籍目録』

鬼脇村役場　1902「移住民戸口表ノ件」＊元綴り不明
鬼脇村役場　1918『大正七年拾弐月　戸口調査票　第二部』
河田楨　1921『旅に住む日』　日新書院
東利尻町教育委員会　1969～1985『南浜獅子神楽保存会関係』文書綴
稚内市史編纂室　1968『稚内市史』
榎本守恵　1971『枝幸町史　下巻』
富山県教育委員会　1979『富山県の獅子舞』
富澤英編　1980『歌登町史』
羽幌町文化連盟　1983『羽幌の文化』
関秀志　1985「離島社会の形成過程について(2)－明治初期～大正中期における利尻島鬼脇村を中心に－」『北海道開拓記念館調査報告』第 24 号
利尻郷土史研究会　1986『利尻郷土研究第二号　利尻の石碑』
平元正海　1992「南浜部落の今昔の話」『文芸りしり』第 13 号
新編天塩町史編纂委員会　1993『新編天塩町史』
佐藤萬　1997『利尻島本泊ものがたり　けっけのけ』
中頓別町史編纂委員会　1997『中頓別町史』
北海道教育委員会　1998『北海道の民俗芸能－北海道民俗芸能緊急調査報告書－』
利尻富士町史編纂委員会　1998『利尻富士町史』
稚内市史編さん委員会　1999『稚内市史』第二巻
利尻町史編纂委員会　2000『利尻町史通史編』
豊富町史編さん委員会　2002『豊富町史』第二巻
西谷榮治　2010『利尻の語り　先人たちの聞き語りで綴るもうひとつの島の歴史』
赤川智保・吉岡精一　2011『踊る、舞踊譜　北海道千歳泉郷獅子舞の事例から』
浅見吏郎　2013「道内の獅子舞活動－富山県・香川県から伝承された獅子舞－」『札幌大学総合論叢』第 35 号
永幡豊　2013「北海道における仏教寺院の分布について」『地理学論集』Vol88,№1
古川恭司　2015『南浜獅子神楽の沿革』

Web サイト

浅見吏郎　『北海道の獅子舞』　http://44mai.iza-yoi.net/

表3　北海道に伝わる越中獅子舞

No.	名称	管内	所在地	タイプ	伝承年	伝承元	主な公開場所・期日	備考
1	丘珠獅子舞	石狩	札幌市東区丘珠町	砺波	明治25	福野町安居	丘珠神社、旧新暦9/15	市文化財
2	篠路烈々布獅子舞	石狩	札幌市北区篠路	砺波	明治34	福光町神成	篠路神社、新暦9/8	
3	泉郷獅子舞	石狩	千歳市泉郷	砺波	明治29頃	富山市水橋町辻ケ堂	泉郷神社、新暦9/20,21	市文化財
4	望来獅子舞	石狩	石狩市厚田区望来	砺波	昭和5	利賀村下原	望来神社、新暦9月中旬	
5	鵡川獅子舞	胆振	鵡川町			小矢部市安養寺	鵡川神社、新暦9/14,15	
6	濁川越中神楽	渡島	森町字濁川		明治31		濁川神社、新暦4/15,9/15	
7	神楽獅子舞	上川	旭川市西神楽		明治32	入善町小摺戸	神楽神社、新暦8/7	
8	豊田獅子舞	上川	旭川市東旭川町豊田	下新川	昭和22	黒部市若栗	旭川神社、新暦8/15	
9	上川獅子舞	上川	旭川市上川神社	下新川	昭和3	黒部市釈迦堂	上川神社、新暦5/15,7/21,22,8/15	
10	永山獅子舞	上川	旭川市永山		昭和4	黒部市若栗	永山神社、新暦7/1	
11	瑞穂青年こども獅子舞	上川	士別市朝日町		大正10	婦負郡		
12	瑞穂獅子舞	上川	士別市朝日町7区8区	金蔵	大正5	婦負郡	朝日神社、新暦8/25	市文化財
13	北野神社獅子舞	上川	鷹栖町	砺波	明治31	福野町東野尻	北野神社、新暦8/4	町文化財
14	鷹栖町獅子舞	上川	鷹栖町	砺波		砺波市苗加？		
15	松平天狗獅子舞	上川	鷹栖町					
16	美瑛親子獅子舞	上川	美瑛町	氷見	昭和13	氷見市久目	美瑛神社、新暦7/25	
17	名寄風連獅子舞	上川	名寄市風連町字瑞生下多寄	砥波	明治44	平村五箇山	下多寄神社、新暦9/6	市文化財
18	富良野獅子舞	上川	富良野市学田三区	砥波	明治42	砺波市五郎丸	富良野神社、新暦8/25	市文化財
19	山部越中獅子舞	上川	富良野市山部	下新川	明治	入善町新屋	山部神社、新暦9/8	
20	幾寅獅子舞	上川	南富良野町幾寅	砺波	明治36	富山	南富良野神社、新暦9/17	町文化財
21	住吉獅子舞	空知	赤平市住吉	氷見	明治41	氷見市吉池	住吉神社、新暦6,9月	市文化財
22	芦別獅子	空知	芦別市本町	砺波	明治33	城端町西明	芦別神社、新暦9/6	市文化財
23	塊鉱黒獅子	空知	芦別市	砺波	明治47	井波町？		
24	金子獅子舞	空知	岩見沢市	氷見	明治31	氷見市有郷論田		
25	元町子供獅子舞	空知	岩見沢市	氷見	昭和26	氷見市大野新町		
26	北元町青年会獅子舞	空知	岩見沢市	氷見	昭和27	氷見市大野新町		
27	新生元町子供獅子舞	空知	岩見沢市	氷見	昭和54	氷見市大野新町		
28	栗沢町砥波獅子舞	空知	岩見沢市栗沢町砥波	砺波	明治39	福光町広瀬・坂本	砺波神社、新暦9/10	市文化財
29	大願獅子舞	空知	岩見沢市大願町	氷見	大正7	氷見市十二町津坂	岩見沢神社、新暦9/14	
30	上砂川獅子神楽	空知	上砂川町	金蔵	大正7	富山市（南部）		
31	栗山親子獅子舞	空知	栗山町	砺波	昭和5	福光町	栗山天満宮、新暦9/25	
32	雨竜獅子神楽	空知	雨竜町	下新川	明治40	入善町小摺戸		町文化財
33	新十津川町獅子神楽	空知	新十津川町第四区	砺波	明治41	利賀村栃原	新十津川神社、新暦9/4	町文化財
34	滝の上獅子舞	空知	秩父別町	砺波	明治42	上平村	秩父別神社、新暦9/15	町文化財
35	長沼勇み獅子舞	空知	長沼町	氷見	昭和2	氷見市	長沼神社、新暦9/15,旧暦8/21	町文化財
36	本願寺越中獅子舞	空知	沼田町字北竜	砺波	明治34	庄川町青島	北竜神社、新暦9/7,8	町文化財
37	沼田越中獅子舞	空知	沼田町	砺波	昭和8頃	庄川町青島	沼田神社、新暦9/10	
38	峰延獅子舞	空知	美唄市峰延町峰樺		明治33	井波町森清	峰延神社、新暦9/9	市文化財
39	多度志（猪殺し）獅子舞	空知	深川市多度志	砺波	大正4	上平村猪谷	多度志神社、新暦9/8	市文化財
40	北竜獅子舞	空知	北竜町		昭和2	富山＋淡路	北竜神社、新暦9/8	町文化財
41	妹背牛町獅子舞	空知	妹背牛町	下新川	明治31	黒部市	妹背牛神社、新暦8月初旬、9/14	町文化財
42	由仁越中獅子舞	空知	由仁町		大正4	富山？		
43	開拓獅子舞	十勝	浦幌町住吉町	氷見	明治35	富山および石川	浦幌神社、新暦9/20	町文化財
44	東士狩獅子舞	十勝	音更町東士狩	氷見	明治35	砥波市江波	東士狩神社、旧暦8/23	町文化財
45	矢部獅子舞	十勝	音更町住吉	砺波	明治37	福岡町矢部	住吉神社、新暦9/17,旧暦8/23	町文化財
46	速星獅子舞	十勝	上士幌町		大正15	婦負郡速星村		
47	糠内獅子舞	十勝	幕別町字糠内	砺波	明治30頃	福岡町土屋		町文化財
48	仁多獅子舞	釧路	弟子屈町	砺波	明治39	西砥波郡		町文化財
49	鐺別獅子舞	釧路	弟子屈町	射水	明治38	射水郡		町文化財
50	珸瑶瑁獅子神楽	根室	根室市珸瑶瑁2丁目	下新川	大正12	黒部市沓掛	珸瑶瑁神社	市文化財
51	有明獅子舞	留萌	初山別村字有明	下新川	明治36	入善町上田地区	有明八幡神社、新暦9/14	村文化財
52	越中獅子舞	留萌	天塩町	射水	昭和17	新湊市放生津	天塩厳島神社、新暦7/16,17	
53	平越中獅子舞	留萌	羽幌町字平	砺波	明治33	平村	平神社、新暦9/10	町文化財
54	中央越中獅子神楽	留萌	羽幌町字中央		明治31	富山		町文化財
55	樽真布祭典奉納獅子舞	留萌	留萌市樽真布		明治38	富山	八幡神社、新暦9月中旬	
56	幌糠獅子舞	留萌	留萌市幌糠		明治33	平村五箇山	幌糠神社、新暦8月下旬、9月中旬	
57	南浜獅子神楽	宗谷	利尻富士町鬼脇字南浜	氷見・射水	明治	新湊市放生津？	北海島まつり、7月末	町文化財